

ECB、インフレ抑制を優先し 0.5%利上げに踏み切る

ポイント① 日銀、大規模緩和策を維持

日本銀行は、7月20-21日に開催した金融政策決定会合で現状の大規模金融緩和策の維持を決定しました。なお、22年度の消費者物価指数（除く生鮮食品）の見通しを従来の前年度比1.9%上昇から同2.3%上昇へ上方修正し、日銀目標の2%を上回りました。

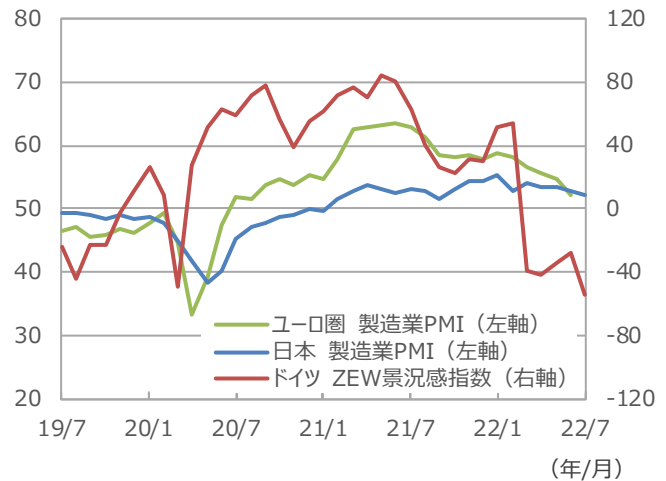
ポイント② ECB、0.5%利上げを決定

ECB（欧州中央銀行）は、21日の理事会で政策金利を0.5%引き上げると決定しました。6月の理事会の声明文で示した0.25%を上回る利上げ幅となり、足元高騰するインフレ率の抑制を急ぐ姿勢です。また、ラガルドECB総裁は、今後も漸進的に利上げを続ける意向を示しました。同時に、南欧諸国の国債利回りの急上昇の抑制策を導入し、自国の過失なく借り入れコストが急上昇した国の債券を購入すると発表しました。域内加盟国の金融市場の安定化を図る狙いとみられます。

ポイント③ 景気の先行きに注目

日銀は、足元の物価上昇は輸入物価の上昇と価格転嫁による一時的なものであり、2%の物価目標の安定実現と賃金上昇を目指すために緩和継続が必要とし、景気への配慮姿勢を示しました。一方、ユーロ圏においては、7月のドイツのZEW景況感指数は-53.8と大幅に悪化し、景気後退が懸念されています。急速な金融引締めは景気を落ち込ませる可能性が高く、今後のECBの舵取りに注視が必要です。21日の為替市場では、市場予想通りとなった日銀の発表を受け、円は対米ドルで小動きに留まった一方、ECBによる市場予想以上の利上げを受け、ユーロは対米ドルで一時急上昇したものの、その後、戻りました。

日本、ユーロ圏、ドイツの景況感指数の推移



期間：2019年7月～2022年7月、月次（ユーロ圏 製造業PMIは6月まで。）
PMI：購買担当者景気指数
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

円とユーロ相場の推移（対米ドル）



期間：2010年1月1日～2022年7月21日、日次
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要イベント

- 7月29日 ユーロ圏消費者物価指数（7月）
- 8月10日 米消費者物価指数（7月）
- 8月19日 日本消費者物価指数（7月）